2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名	一般社団法人もも	活動タイトル	支援制度の狭間にいる中高生に向けた拠点型アウトリーチ事業

望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）

●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは、生まれ育つ環境に左右されず自分の未来に希望が持てる社会です。 学校に通っていない通えていない、経済的にゆとりがないなど生きづらさを持つ子ども若者の興味関心に寄り添える学びの場が地域にあることを目指します。 具体的には、総合的な学びの場（5教科・文化芸術・探究活動）・家庭的なソーシャルワークハウス（相談支援・一時宿泊施設）・地域住民と若者で運営する食事の場（若者のチャレンジの場・多世代交流）が地域にあり、誰もが社会資源にアクセスできる状態が望ましい社会状況とします。
●団体の社会的役割（ミッション）	当団体は、子ども若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームをつくる」をミッションに活動しています。子ども・若者期を支えることを目的として、不登校・発達障害・経済的困窮・ケアラー・精神疾患など社会的孤立傾向にある子どもの抱える課題を緩和することとこどもが自分の力を発揮していくことを目指します。この目的のために、福祉や教育の枠組みとは異なる居場所の創造、精神的に自由な空間の創造を目指します。多様なセクターと連携しながら、学習・文化・福祉・医療などの側面から包括的な活動に取り組んでいます。
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源：現場や全体のマネジメント、バックオフィス、福祉に関する相談支援などを担当する専従スタッフ10名、有償スタッフ30名、ボランティア60名が所属しており、複数の拠点を運営できている状態です。 ●望ましい物的資源：アウトリーチにつながる拠点やエンパワーメントにつながる支援の拠点などを香川県に5拠点と過疎地域に拠点を持つことです。支援の場が少ない地域にも展開できていることを目指します。居場所支援、教育支援、暮らし支援、相談支援など多機能な場があり、こども・若者が状況に合わせて活用できるようになることです。

■活動風景

様々な経験をされてきた大人の方々と若者との交流会。写真は大人が電子黒板を使って体験談などを語っている様子。

■活動報告

・拠点型アウトリーチ（学習支援・自習室）を合計70回開催しました。参加者数は延べ157名でした。不登校傾向にある中学生や通信制高校に通う高校生、大学受験を目指す高校生、高校を卒業した若者などが参加しました。不登校や不登校傾向にある中学生は学校の課題、テスト勉強、受験勉強に取り組みました。高校生はレポート、テスト勉強、大学受験の勉強に取り組みました。高校を卒業した若者は就職試験の勉強や面接練習に取り組みました。
・当事者の交流会を2回実施しました。当事者であるボランティアの方々を中心とした会とご飯を食べながら交流する会を実施しました。参加者からは、「環境に左右されることがあったっとしても、がんばっていきたい」など前向きな言葉がみられました。
・ユース新聞を3回発行しました。第1回目はスタッフ中心で作成、第2回目はこども・若者が作成しました。第3回目は、若者へのインタビューを実施しました。
・情報発信として、教育に携わろうと考えている学生およびこども若者支援に関わる方々（行政職、学校の先生、支援者、ボランティア参加者、応援くださる方など）を対象に、一般社団法人ももの活動を展示とプレゼンテーションで報告しました。定員である60名が来場されました。

■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)

・（活動内容・アウトプット）活動内容である自習室、当事者の交流会、ユース新聞の発行、ユースワークに関わる研修とフローチャートの作成を実施し、目標を達成しました。加えて、情報発信の一環として「こども・若者の多様性と創造性」というテーマでフォーラムを開催しました。「こども若者の権利から考えるまちづくり～尼崎市の取り組みから～」というテーマで基調講演を能島祐介氏に、「セクターを越えた協働」のテーマでパネルディスカッションを6名で実施しました。パネルディスカッションには、産業界、教育委員会、行政、NPOなど多様な方々に登壇いただきました。
・（活動の成果・アウトカム）自習室、当事者の交流会、フォーラムにおいてアンケートを実施しました。継続的に参加しアンケートに回答されたからは、前向きな回答が得られました。
・ユース新聞読者の感想「利用者さんが実際に書いてくれた文章は、自分の気持ちをまっすぐに書いていて、環境を整えればこんなにも伝えることができると知りました。引き出すもも通信の在在の大きさを感じています。きっと書いた本人も自信につながってるんだと思います。素敵な活動を知れて、世界が1つ増えたような気持ちです。」

教育に携わろうと考えている学生およびこども若者支援に関わる方々（行政職、学校の先生、支援者、ボランティア参加者、応援くださる方など）を対象としたフォーラム。写真はパネルディスカッションの様子。

■事業を通じて得られたノウハウ

・中学生、高校生、高校を卒業した若者まで広く学習支援を行うことができました。従来は高校受験のサポートが多かったですが、今回の助成では大学受験や就職試験のサポート（英語、数学、小論文、面接など）まで実施することができました。若者の進路が決まるまで期間のアルバイト選びを一緒にするなどを行い、信頼関係の構築ができたと思われます。
・ユース新聞をこども・若者とともに発行できました。こども・若者が主体的に行動して作成する動きを実践することができました。に一緒に活動する彼らの声を通して一人でも多くの悩める子ども・若者や、そしてその周囲にいらっしゃる大人たちに届けたいと考えています。
・こども・若者、また学校の先生への活動の認知度向上のために香川県、高松市、香川県教育委員会、高松市教育委員会の後援を申請し、約30校の学校に1400枚のチラシを配布しました。

■望ましい社会状況を達成するための課題

・拠点型アウトリーチとして中高生世代に向けてスティグマを感じずに無料で利用できる自習室を開室しました。課題点は、自習をする人数が目標には到達しなかった点です。１回の利用者を１０人以上を目標にしていましたが、平均2-3名でした。人数の点からみると、不登校・発達障害・虐待の傾向や家庭不和があるが支援制度の対象にはならない中高生世代の社会的孤立を防ぐことを目的とする点に課題が残りました。
・自己肯定感の指標として下記のアンケートを実施しました。
-自分にはいろいろな素質があると思うか、初期値21%から64%に増加
-自分のことを好ましく感じるか、初期値14%から57%に増加
自己肯定感の数値が高まると、自己受容や自己効力感も高まっていると考えられます。80%の数値を目指していきたいと思います。

■活動成果のアピールポイント（自由記入）

この1年間の活動を通じて	学ぶ場所づくりとキャリア支援により、こども・若者の進路実現	を達成しました。

■受益者の具体的な変化（自由記入）

・不登校状態から就職試験に合格し、希望の職業に就くことができたこと。
・若年無業の状態から働き始めたこと。
・受験勉強を経て高校進学・大学進学をしたこと。